



しぶんぎ座流星群

天空が広がる一覧三山の台(久住山系、祖母山系、阿蘇山系の山々を一望できる)であるうぶやまの高原には、積雪があり大変寒いのですが、晴れていれば肉眼で見える限界の6等星や天の川まで見える素晴らしいうぶやまの星空を楽しみませんか。

指導員コラム（天体情報・見どころ）

1月のうぶやま天文台の星空情報の第1弾は、年の初めに極大を迎える三大流星群のひとつしぶんぎ座流星群を見ようです。

しぶんぎ座流星群とは、8月のヘルセウス座流星群、12月のふたご座流星群とともに三大流星群と呼ばれています。毎年安定して多くの流星が出現するペルセウス流星群やふたご座流星群と比べると、しぶんぎ座流星群は、活動が活発な期間が短いことや、年によって出現数が変化しやすいことから、流星が多く見られる年は限られています。

今年はしぶんぎ座流星群の極大は、1月4日6時頃と予想されています。日本ではすでに薄明が始まっている時間帯のため、その直前の5時頃が見頃となるでしょう。

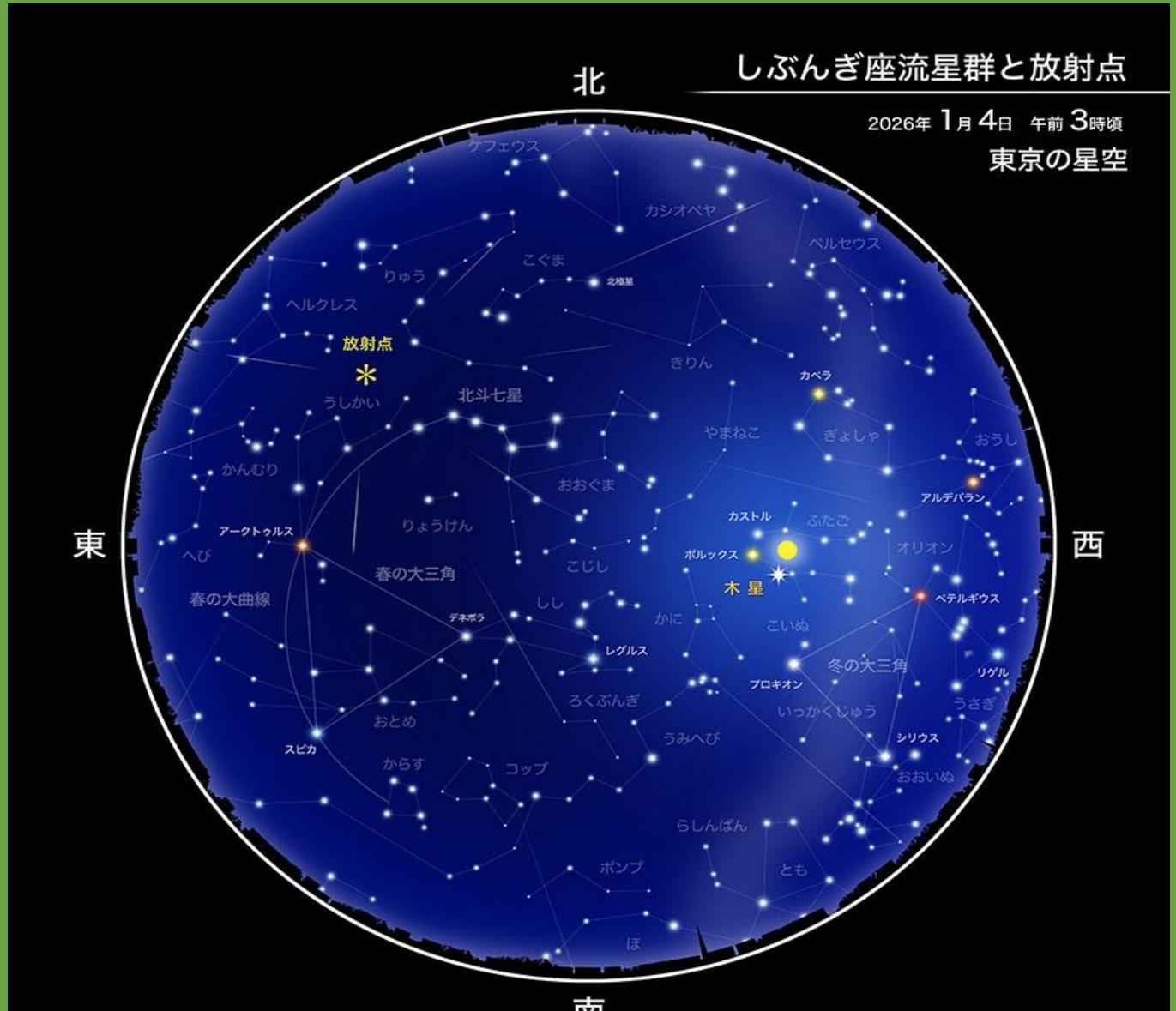
しぶんぎ座流星群の流星が見え始めるのは、放射点が昇ってきた後の1月4日1時頃です。時間の経過とともに放射点が高くなり流星数が増加していきます。

3日に満月となったばかりの月が空にあり、月明かりが邪魔となるので、多くの流星は望めそうにはありません。最も多く見えるのは5時頃で、実際に見える流星の数は、空の暗い所で1時間当たり15個から20個ほどと予想されています。その後、夜明けとともに見えなくなります。

流星は、放射点を中心に放射状に流れますが、放射点付近だけでなくどちらの方向にも現れますので、なるべく空の広い範囲見渡すようにしましょう。今年は、明るい月が空に見えますので、月が視界に入らないように観察するのがお勧めです。また、屋外の暗さに慣れるまで、最低でも15分位観察を続けるとよいでしょう。レジャーシートを敷いて寝転んだり、背もたれが傾けられる椅子に座ったりすると、楽な姿勢で観察できます。大変寒い季節ですので、防寒対策をしっかり行ってください。事故に遭わないように十分注意してマナーを守って観察してください。

（次ページへ続きます）

観察対象



しぶんぎ座流星群と放射点